

第5回特別展

桂川甫周没後200年記念

西洋に知られた日本人

- 甫周と光太夫 -

会期 2009年9月16日(水)～11月8日(日)

大黒屋光太夫記念館 第5回特別展
桂川甫周没後200年記念

西洋に知られた日本人

～甫周と光太夫～

2009 **9.16** (水) ～ **11.8** (日)

- 開館時間 / 10:00～16:00
- 休館日 / 月曜日(祝日の場合は開館)・火曜日・第3水曜日
- 主催 / 鈴鹿市

観覧料 無料

大黒屋光太夫記念館
〒510-0224 鈴鹿市若松中一丁目1-B
TEL & FAX 059-385-3797
原委図録570円(送料別)以下
http://www.city.suzuka.lg.jp/kobayashi 大黒屋光太夫記念館

桂川甫周没後200年記念
特別展 西洋に知られた日本人 - 甫周と光太夫 -
期 間 2009年9月16日(水)～11月8日(日)

幕府の奥医師で蘭学者の桂川甫周は、若くして「解体新書」の翻訳に参加し、日本で初めて医学に顕微鏡を導入するなどの業績を残しました。また、オランダ商館長の江戸参府に随行した外科医・ツェンペリーに師事し、リンネの植物標本法を学ぶなど、オランダ人とも積極的に交流しました。甫周の名前は、オランダからヨーロッパへと広まっていきました。江戸時代に海外に名を知られた数少ない日本人です。一方、ロシアに漂流した大黒屋光太夫もヨーロッパにその名を知られた日本人でした。ふたりは江戸で出会います。甫周が帰国後の光太夫からロシアの事情を聞き取り編み込んだ「北極図略」は、江戸時代のロシア研究の最高峰とも言われ、以降の海外研究にも大きな影響をあたえました。

今回の特別展では、没後200年を記念し、桂川甫周と大黒屋光太夫について紹介します。



1.「光太夫・蘭古蘭報」



2.「解体新書」



3.「命製鏡」



4.北極図略「万国地球全図」(部分)



5.桂川甫周「蘭教図」

◎主な観覧資料
『解体新書』(2) ◆早稲田大学図書館蔵 / 『北極図略』 鈴鹿市蔵 / 『佐田家家譜』 個人蔵
『命製鏡』(3) ◆早稲田大学図書館蔵 / 『万国地球全図』(4) ◆津国書館蔵
『蘭教図』(5) ◆早稲田大学図書館蔵 / 『大黒屋光太夫・蘭古蘭報』(1) 鈴鹿市蔵 はか

◎展示期間中、展示替えを行います
◆常期展示 9/16-10/18 ■後期展示 10/22-11/8
*都合により展示資料が変更になる場合があります

**先着500名に
展示解説図録を
無料配布します**

次回展示 企画展「光太夫がかいたロシア文字」 11月11日(水)～3月14日(日)

お問い合わせ ■大黒屋光太夫記念館 〒510-0224 鈴鹿市若松中一丁目1-B TEL & FAX 059-385-3797
http://www.city.suzuka.lg.jp/kobayashi 大黒屋光太夫記念館 検索
■鈴鹿市文化芸術部 文化課 〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18-1B TEL 059-382-8031 FAX 059-382-9071